

はじける こころ

vol.12

- 人権の宝島：箕面東高校発.....1
箕面市教研・人研・外教合同夏季一日研開催！.....3
なんてこったい！かわのひでただ.....5
平和学習の取り組み.....6
 せいなん幼稚園・箕面保育所・桜保育所・南小学校
人権教育基本方針解説.....7

げ ん げ の の ペ え じ

●写真募集！●子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔...などの写真をお送りください。



げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立て、それが一面に花開く様子をイメージしました。

みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

テーマ
「つながり」を求めて、今回は本年度より新しい枠組みでスタートした箕面東高校を訪ねました。

ワールドで学ぼう・見つけよう・可能性

平成17年、いままでにない新しい「学び方」のできる学校が箕面に誕生しました。

箕面東高等学校 クリエイティブスクールとは こんな学校です

私たちは生徒の多様な個性を大切にする学校づくりをしようと考えています。生徒の多様な個性（興味・適性・学力・進路希望・生活スタイルなど）を満足させるためには、数多くの選択できるものを用意しなければなりません。私たちはそれを可能にするのが、クリエイティブスクール（多部制単位制高校）だと考えています。

① 全日制からⅠ部(午前)とⅡ部(午後)の多部制へ

入学試験でⅠ部かⅡ部のどちらかに入ります。1時間目から8時間目まで授業時間を設定していますから、1日6時間の授業を受ければ3年で、1日4時間の授業を受ければ4年で卒業できます。自分の生活や学習スタイルにあった授業時間帯が選択できます。

② 学年制から単位制へ

3年以上で一定の単位（74単位以上）を修得すれば卒業となります。また、二学期制なので単位も半期認定が可能です。自分の進路や適性、興味・関心に応じてじっくりと学ぶことができます。ただし、学年制と同様にクラスや担任はあります。

③ 「学校が時間割を作る」から「自分で時間割を作る」へ

進路希望者をサポートする「一般選択科目」以外に、「ワールド」という特色ある本校独自の選択科目を50科目以上用意しています。自分で勉強して大学資格検定や漢字検定、英語検定などに合格すれば高校の単位として認定します。自分の進路・目標、興味・関心、適性に応じて、多くの選択科目の中から選んで、自分で時間割を作ることができます。

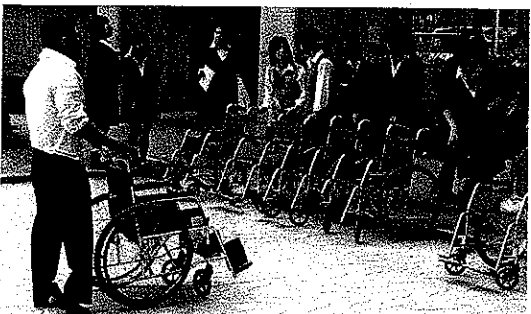
④ 「学校の中」から「学校の外」へ

連携している大学・短大・専修学校の授業を受けることができ、それを単位として認定します。また、あらかじめ認められたボランティアや就業体験も単位として認定できるので、「いつでもどこでも」チャレンジできる学校です。

箕面東高校



人文・アートワールド「劇表現Ⅰ」



福祉・スポーツワールド「社会福祉入門A」

市民委員の感想

「生徒本位の改革」によりクリエイティブスキルとなった箕面東高校のワールド授業を見学させて頂き、今までの高校のイメージと少し違う感じを受け今回の「はじけるころ」のテーマの「つながり」を考えてみた。

学校から与えられたものではなく、自分で時間割を考えないといけないことにより一方通行だったものがキャッチボールが必ずいるものになったと思う。そのキャッチボールが「つながり」であり、どんな小さなことでも大切にしたいと思った。ワールド授業により色々な分野の人と交流がもて「つながり」がどんどん広がることでしよう。子ども本位重視の学校体制に「つながり」の重要性を引き出して頂けるよう期待したいと思う。

人権教育推進会議委員 谷口俊美

一人ひとりの生徒が自主的に科目を選択するというと、結局は好きなことばかりに傾倒して「自分の世界に入り込んで他者との関わり方が苦手な若者」を育ててしまうのではないかという懸念があった。見学後、それを払拭したのは、選択授業を担当する多様な社会人の方々や接し体験学習の中で、いわゆる学校内で学ぶ知識の習得だけでなく、学校外の社会についても直接知る機会を得て、そこから将来自分がそこに関わっていく道を見つけていくとする生徒たちの素直な笑顔だった。外部講師の「先生」というよりむしろ「人生の先輩」として生徒たちと向き合う姿勢が、生徒たちの若い感性をうまく伸ばしていけるような予感がした。

人権教育推進会議委員 平沢清美

「なんのために勉強するのか？」現役の生徒だった頃、誰もが一度は考えたのではないだろうか。大人になった今は、子どもたちにその答えを迫られる立場になった。その答えを子ども達自身が、現役のうちに見つける事ができたら、きっと学習は楽しく有意義なものになるだろう。クリエイティブスクールとなった箕面東高校に伺って感じたのは、このスタイルがうまく確立されれば、それを獲得できる生徒が増えるのではないかという予感だった。外部から講師を招いて行われていたワールドの授業では、デジタルであったり、劇であったり、興味深く楽しそうではあるけれど、高校の授業である必要があるのかなと疑問に思うような内容のものもあった。



土曜講座「数学の応用折り紙」

人権教育推進会議委員 上田 晃江

だが、講師の方々からお話を伺って、生徒たちが学んでいるのは、それらを通していかに自己表現していくか、いかに他者とながっていくかという、大切な本質の部分であることがわかった。しかも教える事のプロではない講師の方々が、生徒たちを人生の後輩として、愛情を持って接しておられる。もちろん、全ての生徒がクリエイティブスクールの恩恵を理解し、積極的に取り組んでいるわけではないだろう。しかし、「勉強はきらいだったけど、ワールドの授業を受けてから、やっぱりしなないといけないのかなと思うようになったから、国語や理科もがんばるようにしています。」と話していた生徒はイキイキしていた。高校中退者が後を絶たない昨今、成績や受験のためではなく、主体的に学ぶ事の喜びを見つけれられる子どもたちが、この学校で少しでも増えていくことを願いたい。

箕面市教研・人研・外教合同夏季一日研開催！

8月1日、夏季合同一日研がみのおサンプラザで行われました。
箕面市立学校園教職員と人権教育推進会議市民委員の約360名の参加者の中、午前・午後各4分科会の全8分科会で開催されました。

「家庭との連携」分科会 それでも保護者とながりたい

・とても学びがありました。子どものことで不安なことが起きるとすぐ結論や答えがほしくなって、考えが狭くなるので、事実をまっすぐ受け入れて、情をもちつつおぼれず、子どもを真ん中において考えることを、あらためて重要だと思いました。ありがとうございました。

(アンケートより)

「家庭との連携」分科会に参加した。モデルとして示された気になる児童の話を紹介し、家庭訪問の際のように保護者へアプローチするかを話す。そして、グループの代表者を保護者（戸田先生の役割）のもとに送る。近所の人からも情報を得るが、アプローチの仕方がよければ、保護者は詳しい情報を提供するという設定。保護者の話の意外な展開に驚きながら、保護者とい関係築き、子どものためにいっしょに何ができるかを考えていくという姿勢、気持ちに寄り添うことの大切さを再確認することができた。家庭訪問に望む先生方の熱意や姿勢も垣間見ることができ、非常にいいワークショップであった。

人権教育推進会議委員 守帰 朋子



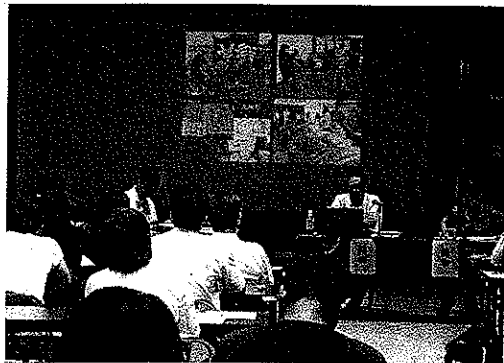
「人権・部落問題学習」分科会 ステップ・アップ 部落問題学習

・部落問題学習のあり方を今年度専門部できちんと論議しながら提起できるようにしたいと強く思った。人の生き方の学習であるという視点を大切にしたい。(アンケートより)
井上勉さんのお話は表題どおり「暮らしづくりネットワークに込めた地域の願い」が大変よくわかり、又、現在の北芝が抱える

問題点も知ることが出来た良い発表でした。私にとっては多くの発見がありました。

少ない授業時間の中で、人権問題・部落問題学習を中心教材として学習するとき、指導者は子どもたちに何を問いかけるのか、そしてこの学習を通して人として生きるまで子どもたちが自分の力で何を獲得していって欲しいのか、もっとつめて授業に臨んで欲しいと思いました。子どもたちの歴史認識が少ないならば、きちんと教える事から入らねば、北芝の今だけを見るに終わるのではないかとも思いました。

「文字が読めない。書けない」だからデイサービスに行きたくない」という老人が家





に引きこもっていると言う話は非常にショックでした。

人権教育推進会議委員 小関麻沙好

「多文化共生と在日外国人教育」分科会 みのおを豊かな共生のまちに：

前半をニューカマー、後半をオールドカマーと2部構成での分科会であった。

前半では、言葉が通じず文化・風習も違うニューカマーを受け入れることの大変さ、

夏季研をふりかえって

この研究会は人権教育のとりくみ課題が多様化する中、箕面市の学校園における同和教育をはじめとする人権教育の推進と研究のため、毎年8月に行っています。どの分科会も今日的な人権テーマを意識して運営されましたが、ここでは2つの分科会の様子をお知らせします。現在は教員大量採用の時代です。若い教職員に学級づくり、授業づくり、子どもとのつながりなどまっすぐに子どもと向き合うハートやノウハウを伝えていくことが、学校園現場で今、必要とされています。「イキイキ・ヤング・パワーアップレポート」の分科会では若い

日本の風習・言葉を学びつつ、母国の文化や言葉も大切にするというバランスへ向けての学校としての取り組みの報告が、現場の声としてとても生き生きと感じられた。

後半、オールドカマーの話で興味深かったのは、オールドカマーと呼ばれる在日の人たちも数十年前にはニューカマーであったはずなのに、現在のニューカマーや受け入れ側の学校がいまだに対応に苦慮しているというのは、この数十年の間に、他国からの生徒、保護者を受け入れるための体制やシステムが、学校に限らず社会全体で、全く確立されてこなかったということだ、という話だ。

もちろん以前に比べると、様々な対応が可能にはなってきたが、概ねそれは当事者となった担当の先生方のご尽力によるところが大きく、誰がどこに行っても同じ対応が受けられる状態ではないということが問題である。日々の生活に差し迫って困難があるというニューカマーと、問題がより複雑で繊細なものに変化しているオール

ドカマーが、実は同じ線上にいるのだということがよくわかった。

前後半とも時間がなく報告者の発言を聞くだけでほとんど質疑応答もできず、話を掘り下げるものが出来なかったのが残念であった。この分科会で提起されたような問題に対し、現場でどのような具体的な方策が模索されるのか、そしてそれを助けるための制度的な整備がなされていくのか、もつと頻繁に話し合える場が持たれることを願いたい。

人権教育推進会議委員

上田 晃江



教員の教育実践が報告され、参加者からの熱心な意見交流がありました。

人権教育の広がりの中で、部落問題学習の実践はその柱となるものです。「ステップ・アップ部落問題学習」の分科会では、菅野地域で展開されているまちづくりのとりくみを井上勉さんに紹介してもらったあと、学校で学習として展開するためのプランづくりをグループ別に行いました。その後、学習プランの全体交流がもたれました。今回の学習プランづくりがきっかけとなり、各校で部落問題学習が推進されていくことを期待します。

箕面市人研・外教事務局

今回、「それでも保護者とながりたい 家庭連携」分科会に参加された人権教育推進会議の市民委員さんからは、「先生方の家庭訪問に臨むお気持ちがよくわかり、非常に勉強になった。先生方のワークシヨップという貴重な体験ができてよかったと思う」という感想をいただきました。

箕面市人権教育研究会（箕面市人研）では今後も行政・市民活動と学校園をコーディネートしながら人権教育の推進に努めていきたいと考えています。

なんてこったい



かわのひでただ

オジサンのお話を聞いてくれるかい。

このまえ、お酒をのみながらテレビをみていたら、特番をやつてさあ。バクバク（人工呼吸器）をつけた小さな女の子が出ていたんだよ。その女の子は、おにいちゃんが行っている幼稚園に行きたくて、行きたくて、しかたがないんだ。でも、バクバクをつかっているから、だれかに吸引（まほういん）のどタン、ツバをすいとる（こと）してもらわなくっちゃならない。だから、幼稚園に入れてくれないうんだよ。女の子は、じゃあって、自分できゅういんの練習をするんだね。ケホ、ケホツて苦しうに、いっしょうけんめい練習していたよ。そしてね、幼稚園のひとたちに手紙を書いたんだ。

「わたしをようちえんにいれてください。助けてください。」

ってね。オジサンは、目のなかが水色でいっぱいになって、テレビがみえなくなっちゃった。

「なつてこつたい。」
と、思ったよ。

また、べつの日に戦争のニュースを見たよ。昼も夜も爆弾が落ちてくるんだ。にげまわっている

こどもたちが、テレビのカメラにむかつて、

「助けてください。」

って、いつた。深い、深い瞳の色だったねえ。オジサンが、きみたちのように小さいころ、この国も戦争をしていてね。オジサンは、大阪の下町に住んでいた。ある日の夜、空襲で焼け野原になった、オジサンの町から、西の空を見るとね、空がオレンジ色というか、赤く、赤く輝いているんだ、夜なのにね。とっても明るい空だった。

それが神戸大空襲の日だったことを、オジサンは、ずいぶん大きくなってから知ったんだよ。たくさんのひとたちが死んだって聞いて、あの夜の空の色を思い出した。たくさんのひとたちが死んで、戦争が終わって、いまのオジサンがいる。戦争が終わっても、食べるものがなくなつてねえ。おなががすいて、おなががすいて、小さなこどもだったオジサンは、だれかに、

「助けてください。」

って、いつていたんだ。それが、六〇年前のことさ。いまも、むかしも、「なんてこつたい。」だよ。



みんなではなしあうヒント

- みんなではなしあうヒント
- 小さな女の子は、どうして助けてくださいって手紙を書いたんだろうか。
- あなたは、戦争を知っていますか
- 空襲って、どんなことですか。
- 戦争になると、どうしてこどもたちはにげまわるのでしょうか。
- 戦争は、どうしておこるのかを、先生といっしょに考えよう。
- オジサンは、どうして「なんてこつたい。」と思ったんでしょうか。
- あなたは、おなががすいたことがありますか。食べ物がないとは、どういうことですか。

平和学習の取り組み

せいなん幼稚園

..... 2005・平和登園日

今年、遠足で動物園を訪れました。

子どもたちにとって身近な動物たちを通して「戦争」を……
そして「平和」の大切さを伝えたいと思い取り組みました。



*平和を願う絵本コーナー

広島・長崎・世界の国々で
起こったこと……
親子で手にとって読んで
もらいました。

*折り鶴のコーナー

「平和への思い」を届けようと
親子で折り鶴を折りました。
動物園の慰霊碑に、届けようと
思っています。

*展示コーナー

今現在もそこに住む人々の命を
脅かす地雷。
戦争の一場面ですが、
パネルにして展示しました。

*絵本「おれはなにわのライオンや」

戦火の中、動物たちが町で暴れては
大変なことになる！動物たちは
次々に殺されていきました。
天王寺動物園での実話を絵本に
したものです。

「なんで死ななあかんかったんや！」

犠牲になった動物たちの声が
聞こえて
くるようです。

絵本をプロジェク
ターで映したものを親
子で一緒に見たり、
お話を聞きました。

*講話

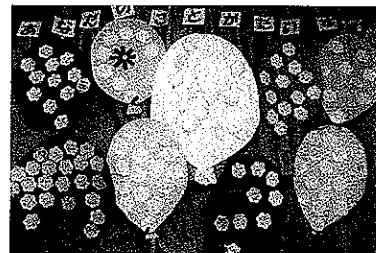
天王寺動物園の飼育係の方から当時
の様子や、飼育係の方々の思いなど
のお話を聞きました。特に懸命に世話を
してきた動物たちを自らの手で殺さな
ければならなかった飼育係の方のお話
は、胸に迫るものでした。

箕面保育所

.....

箕面保育所では今年も「一人ひとりが、みん
なかけがえのない大切な命」をテーマに7月か
ら平和や戦争に関する絵本の貸し出しを始め、
併せて保護者から「あなたが大好きだよ」を伝
えてもらうメッセージを寄せていただきました。
そして9月6日の「平和の集い」では、「世界中
の海が」を手話を交え歌い、「にじいろのさかな」
のペープサートを見ました。

保護者からのメッセージは普段なかなか言葉
では伝えにくいわが子への思い、愛情たっぷりの
言葉がたくさん届き、子どもたち一人に読んで
あげると、とてもうれしそうな笑顔がこぼれ
ました。



桜保育所

.....

今年は戦後60年。私たち保育士も保護者の
方々も戦争を知らない世代です。だからこそ、
今年は保護者と一緒に戦争について、平和につ
いて考えたいと思い、納涼祭に「にじ」と「地雷
ではなく花をください」のOHPを上映しました。

また9月1日から14日の2週間、各クラスで
戦争や平和に関する絵本や世界に目を向けられ
るような絵本の貸し出しをしました。親子で読
み、感じ、考えたことや子どものつぶやきなど、
たくさん感想をいただきました。



南小学校

.....

8月5日の平和登校日。実行委員会形式に変わって出席率は、8割を超
えました。

「南小平和宣言」の唱和、黙祷、「おりづる」の歌など平和祈念式も実行
委員が、全て進行しました。

6年生全員と5年生の実行委員が担当するコーナー活動では、好きなと
ころへ行くことができます。6年生は、平和学習のまとめとして、グルー
プに分かれて発表しました。

今年も、お話会「とんとんとん」やPTAコーラスの方々の協力で、充実
したコーナー活動となりました。

保護者からも「子ども参加
で楽しめる（中味は戦争です
が…）ものでうらやましいで
す。これからも、ぜひ、続け
てほしいです。」との感想
をいただきました。

これからも、命や平和の大
切さをみんなで考える「平和
登校日」を、地域の中に根付
いた取り組みにしていきます。

南小 平和宣言

ぼくたち わたしたちは
へいわを ねがいます。
いのちを たいせつにし、
せんそうが なくなることを ねがいます。
きょうの へいわとうこうびでは、
みんなで
へいわや いのちの たいせつさについて
かんがえてみましょう。
平和登校日 実行委員会

なべちゃん

『人権教育基本方針』①



人権教育は国、地方および市民の責務

今回は人権教育に関する国の政策についてお話ししましょう。

冒頭に引用したのは、国が2000年に制定した人権教育・啓発推進法からの抜粋です。日本の政府が人権教育の推進を、国、地方公共団体に義務づけ、国民ひとりひとりに人権が尊重される社会づくりにつとめる責務があるとする法律を作ったのははじめてのことです。

この法律ができたことによって、箕面市における人権教育は、「やったほうがよい」という問題ではなく、「やらなければならぬ」という責務となりました。またこの法律は人権教育の推進を教育委員会に義務づけているのではなく、地方公共団体に義務づけています。市長にその責任があり、教育委員会まかせにせず、全市民的に取り組むことが必要だという認識に基づいています。

このような法律ができたのは、1995年から2004年に取り組まれた国連人権教育の10年の取り組みがあります。国連は、すべての国がその国民に人権が理解されるように人権教育を行うよう求めています。それは、人類社会のすべての人々が権利の主体であることを知らしめ、自らの権利を守るための知識を提供しなければならないからです。これはある意味で「踏み絵」です。人権教育に消極的な国は、国民の人権意識が高まるとは困るような抑圧的な政治をしていると疑われかねません。日本はとにかく、人権教育をやることと宣言したわけです。

もう一つの重要なことは、人類社会の様々な利害対立の解決にあたって、人権を基本的なルールにしようという「グローバルスタンダード」づくりです。行く先々でサッカーのルールがちがっていたのでは困るように、行く先々で「人を大

切にするということ」の基本的なルールが違っているのはおおいに困ります。すべての国で人権という国際ルールについて教えれば、より楽しく積極的な交流が未来において実現されるのが期待されています。日本政府は国際社会の一員として、その責務を果たそうと宣言したわけです。

ところで、人権教育を進めるとは言ってもこれは実際には難しいものです。子どもたちに九九を教えることですら、けっこう難しいものです。まして「生存権」や「差別されない権利」などについて教えることはもっと難しいでしょう。世界人権宣言には「労働組合を結成し、これに加盟する権利」も基本的人権として規定されていますが、さてこれがなぜ人権なのか、かなり高度な課題です。

こうした課題をクリアするために文部科学省は現在、専門家を集めて「人権教育の指導方法等に関する調査研究会」を設置して検討を進めています。この10月にはこの会議が「第2次とりまとめ」を発表しました。文部科学省のホームページで見られるので、是非見てみてください。

このとりまとめでは、人権についての教育ばかりでなく、生徒指導や学級運営における人権尊重についても踏み込んで書かれています。これまでの政府の人権教育に関する文書の中ではもっとも長く、格段に詳細な内容となっています。箕面市の先生方にも参考となることは多々あると思います。

しかし個人的な印象を言えば、箕面の学校の中には、そこに書かれていることよりもずっとすごい実践があります。そんなよい教育を受けた子どもたちが、人権を世界の隅々に送り届ける役割を果たしていくとよいですね。ささゆりの花束のように。

(鍋島祥郎なべちゃんろう 大阪市立大学創造都市研究科助教授)

人権教育推進会議情報誌『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議

箕面市教育委員会

人権教育課 TEL072-724-6921 FAX072-724-6010

e-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成17年(2005年)12月

人権教育推進会議委員

鍋島祥郎、守婦朋子、小関麻沙好、平沢清美、河野秀忠、小林和幸、安東由紀子、谷口俊美、有光逸子、上田晃江、岡本克己、用澤きよみ、堀江たか子、中田和成、南橋正博、主原照昌、岡村公子、川上加津子、仲野公、森田雅彦、奥山勉、上西彰、栗本忠夫、前田健、中野仁司、稲野公一、森井國央、齋藤史恵、福永茂、吉田直彦、千葉亜紀子、南悦司、向井裕彦、坂上潔司、佐々木久雄、塩山俊明、中澤博、津田善寿、加藤真知子、黒田正記、前田功、辻広志、小谷功、谷口あや子、森和則